

カンキツ黒点病の防除対策について

黒点病は20～28℃で発生し、生育適温は24～25℃である。梅雨期及び秋雨期に降水量が多いと発病が多くなり、特に7月、8月に降雨が続くと多発する。本年は梅雨時期の雨が多かったことから、巡回調査圃場における温州ミカンでは黒点病の発生圃場率、発病度ともに例年より高く、今後の降雨次第では秋期の多発生が懸念されており、この傾向は他のカンキツ類でも同様と考えられる。

伝染源である枯枝を剪除するとともに、枝抜き等により、樹冠内部への日当たりを改善し、新たな枯枝が発生しないように努める。また、多発生園では発生の拡大を防ぐため、収穫前日数に注意して防除を行う。

1. 発生の状況

8月中旬に実施した温州ミカンの巡回調査では、発生圃場率、発病果率、発病度のいずれも平年より高かった（図1）。

(果実) 発生圃場率 : 100 % (平年 47.0%、前年 60.0%)
平均発病果率 : 24.8% (平年 11.4%、前年 8.0%)
平均発病度 : 7.6 (平年 1.9、前年 1.6)

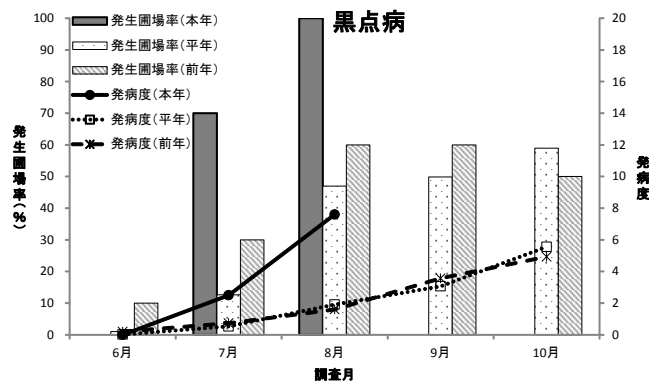


図1 県内温州ミカン黒点病の発生状況

2. 防除上注意すべき事項

- (1) 伝染源である枯枝の剪除を徹底する。
- (2) 本病は降雨により発生が助長される。9月以降も気象状況によって多発することがあるため、状況に応じて収穫前日数に注意しながら防除を実施する。
- (3) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター病害虫チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。

(ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita>)